

環境教育の実施に伴う効果測定事業の概要

趣旨

○本市では、ごみ減量及び食育推進の観点から食品ロス削減事業を重点的に推進しており、様々な施策を講じているが、成果を測るにあたり、アンケートによる意識変化調査を行っているところ。
○しかしながら、事業を推進する上で事業成果を定量的に示す必要があることから、学校給食の食べ残し量を環境教育実施の前後で測定し、事業効果を明らかにするもの。

概要

対 象：市内のモデル小学校3校 実施期間：採択後から1月末まで

食べ残し量調査

9月及び12月

○食べ残し量の測定を、環境教育実施の前後に2回実施
○学校のコンテナ室において、食べ残し量を主食と副菜のそれぞれに分け、毎日測定

食品ロス削減等 環境教育

10月から12月

○全校集会又は講座により児童・生徒に対して事業を説明
○食品ロス削減、食育、食品リサイクルやビンのリユースに関する冊子を作成、活用
○園児を対象とした環境教育のノウハウの活用

意識変化調査

環境教育終了後

○環境教育の実施前後の意識変化を測るため、保護者を対象にアンケート調査を実施
○環境教育の実施により意識付けを行い、その後の変化を測定

堆肥作り講座

○一部の学校で堆肥作り講座を実施
○講座内容を冊子に活用

効果

- 1 学校給食において発生する食べ残し量の細やかな測定
- 2 子どもたちのもったいない意識の向上
- 3 事業モデルの有効性の定量化
- 4 園児を対象とした環境教育との関連性の把握